伊勢物語闕疑抄 三

特別
イ4
3163
208(3)

貴
14
3163
208(3)

ひと男女このことばあひしたがひ
されと申てもてあつかひさうらひ
やれいとうしなやうにさうらへあま
まかりもどりたてまつるさうらえ申なりを
まいり三日もちさうらはれ事あらそえいそて
かくごめん
あくまもてあつかひさうらひ又ひと我まうりを
ひまうさ抱と竜(カナヘビ)をかり申くれいあくまね
なりと見えあのいこうくいさうれと
常のおもりもしあめさうれなぐくおりさ
まてもれしろをあくまとそて

いそうしろうくあるをもとゝ
てもわれねこれたるさえわ〳〵さるりみうち
れもへさねもなれたれたる教といさゝくをて
んとれうへとも捨うこさ二日三日さうとる
きまへよ為てくゝとうくる祖子家よ衣
公なるを前関ももし脱の朝くゝ分別して
乃ろへさとあるを妙もうこの法華三いく
きねの字こし脱よこの字三門書肥ねて
こ消とてこれるいそてこ且こな紙こる
も偖なり
いてゝうこ治こよまこさかこをを
推かいちとといなれんん

ん〳〵明し我なりよ人のたのこさをそ心なりる女
の女なるま〳〵我そこうこ治こより推人のかいちと
といなろんとなるを
物こうかこさにあなるりる
もも筆者の朝なり
もゝ〳〵やのみことやみこ
勘地元賀陽記五桓武葺七母史人多治比氏三
弘治郡つ貞観十三年十月八日薨七十八家記
地治よもゝ〳〵やのみこと
こうをれと云り
そのみこ女とおゝ〳〵ていをりくゝ見
けこ〳〵招いろを人多あこくわるをうこを

とをくと云りけさいしとゝこんこ早苗(サナエ)とる
おるをみるもなく田もる〻その田もと(サナ)しへも
つひろ
田をさなりなんるる男巫
いはらおのさ〻しての田をいれる
我をも里ろ〻しるし
ト〻そなへりとつひろ
はらあまるこまあるもとこ
なる〻れ歟まんと云りれ
平のんなら
ひとわざ〻行人よもまの
ものくうとれ人みあ〻

[illegible]ろ〻せく女の[illegible]
一の男奇〻てりのあ〻
腰(アヅタ)へ行人の年へ下ゐ人
人あわ〻るをれの業平いき常う事〻ひこれ
きうとれ人あもあ
いみ女のさ〻そく蒙(モスソ)し
ゐく引もるみとなさ
我さへともなくおの〻さ
出く引人のあう一衣(キヌ)をねぎくやまいわま
さ〻蒙(モ)うの〻なるとくこりして喪(モ)の字なかり喪(モ)
の字とくつ〻ひこもあり衣裳(キヌノモ)のもなくとこと
引く禍(ワガイ)なくと云ん

わるふまひ枚挙もいとまあらず
ものさわがしうらの浪(カゼ)たちくわんと
事もなくあんと世の中のうけくちくと
あるもこともなくよ豪(モ)の字とうけつかうろもの
呵(カ)はそうあれなん
公帝(リヤウテイ)に有名(ユウメイ)の事うおりくれんとあるを
もうろうあらそひ
とうの死よ到(タイ)
く決起(ケツキ)なる論行(ロンカウ)の人士女の装束(シヤウソク)と
をもやそもあり風情(フゼイ)
とやもくなりろくもあらん
ひくく業平のもろ
業平の我書(ツヽ)よかりくしろ
くれよ面するこ業平の渡(ワタ)の歌(ウタ)
てもろへ
ひとりたこさろくの
男よりのいもんこなりひ
くやさろん抱やんてなりひ
こそなりひしやひ
もくつのそわくれやこさひくお
くれの渡(ワタ)くこりろれこ
渡りわてわ月の
つてわよ私わそひと
みもくこひあこの

業平(ナリヒラ)清涼殿(セイリヤウデン)の額(ガク)
くれよ面するこ業平の渡(ワタ)の歌(ウタ)
てもろへ
ひとりたこさろくの
男よりのいもんこなりひ
くやさろん抱やんてなりひ
こそなりひしやひ
もくつのそわくれやこさひくお
くれの渡くこりろれこ
渡りわてわ月の
つてわよ私わそひと
みもくこひあこの

人の世のうつくし佳(ヨシ)なる女なりかくいひ
出んもいとくるしくなりぬやまひのくう
やうのみよさんけすなるへくそれと女のわや
まやそやそて業平のまことひさそれともや
なくなるそふいとも一月もとの人なれともイミ
ん今日(ケフ)は昔(ムカシ)の月(ツキ)下旬(ゲジュン)のころ業平の
そひ給ひ常の御(ミ)ん(ン)て宮(ミヤ)ありさ給
り納言(ナゴン)となん秋の夜(ヨ)なかくやらん風情(フゼイ)ありてさ詞(コトバ)
行(ユク)ほ(ホ)雲(クモ)のうへもてゆくやうに
秋風(アキカゼ)にたくひてうつろひぬる
後撰(ゴセン)なる秋の部(ブ)より業平の
みそなりやうつの夜の
それそこ
さやうなる
風そうく仲秋(チュウシュウ)の天(テン)のやう
くらうなり蟲(ムシ)の音(ネ)寂(ソウ)
秋夕殿螢飛思悄然(シュウセキテンケイヒシセウゼンタリ)孤燈挑尽未成眠(コトウカケツクシテイマダネムラズ)なる
れさなりの日うよりなりぬ
そのこくなくりのさ

實(み)

一見面白(オモシロ)き詞(コトバ)なり行(ユク)とや
行(ユク)ほ雲(クモ)のうへもてゆくやうに
秋風(アキカゼ)にたくひてうつろひぬる
後撰(ゴセン)なる秋の部(ブ)より業平の
みそなりやうつの夜の
それそこ
さやうなる
風そうく仲秋(チュウシュウ)の天(テン)のやう
くらうなり蟲(ムシ)の音(ネ)寂(ソウ)
秋夕殿螢飛思悄然(シュウセキテンケイヒシセウゼンタリ)孤燈挑尽未成眠(コトウカケツクシテイマダネムラズ)なる
れさなりの日うよりなりぬ
そのこくなくりのさ

なるへし
先ころもおもはくなくなりぬる時のまゝなりけり
いかゝいはゝやおもはくなくなりぬる時のまゝなりけり
常よりおもりかのころおもはくなくなりぬる事なりと云んかり
昔男初んころよりいとかくなりぬる女をいかゝはせんとこの
男とわさなわとやてはまさりけるのこゝろ
おもはぬにひてあまこそよめれ
思ひそめてふ歌さりそれ
大和なる飯の具(グ)こわまこれのひとふりのも
わまこれひさよ多はくよ歌まれおなも

なりけり
昔男初んころよりいとかくなりぬる女をいかゝはせんとこの
男とわさなわとやてはまさりけるのこゝろ
おもはぬにひてあまこそよめれ
思ひそめてふ歌さりそれ
大和なる飯(ハン)の具(グ)こわまこれのひとふりのも
わまこれひさよ多はくよ歌まれおなも
飯(ハン)
おもはぬにひてあまこそよめれ
思ひそめてふ歌さりそれくも
大和なる飯(ハン)の具(グ)こわまこれのひとふりのも
わまこれひさよ多はくよ歌まれおなも
飯(ハン)
昔男ありけり女のえんなりけるをとかくいひわたりけれと
なにせんにかあはさりけれはにやありけん
飯(ハン)
昔男ありけり女のえんなりけるをとかくいひわたりけれと
なにせんにかあはさりけれはにやありけん
飯(ハン)
昔男ありけり女のえんなりけるをとかくいひわたりけれと
なにせんにかあはさりけれはにやありけん
飯(ハン)
昔男ありけり女のえんなりけるをとかくいひわたりけれと
なにせんにかあはさりけれはにやありけん
飯(ハン)
昔男ありけり女のえんなりけるをとかくいひわたりけれと
なにせんにかあはさりけれはにやありけん
飯(ハン)
昔男ありけり女のえんなりけるをとかくいひわたりけれと
なにせんにかあはさりけれはにやありけん
飯(ハン)
昔男ありけり女のえんなりけるをとかくいひわたりけれと
なにせんにかあはさりけれはにやありけん
飯(ハン)
昔男ありけり女のえんなりけるをとかくいひわたりけれと
なにせんにかあはさりけれはにやありけん
飯(ハン)
昔男ありけり女のえんなりけるをとかくいひわたりけれと
なにせんにかあはさりけれはにやありけん
飯(ハン)

心奇ハ古今夢十八よ有詞之ヨ紀(キノトシサダ)貞ノ有ハ
のナルよ哉ろ之ヲ所ハ叶ラ之ハ(アハ)ナ
ク之ヲ之ヲ之ヲ

なよ竹源氏おび書(ニキ)よ(ニホ)ふ兵部(ノ)卿(キヤウ)の宮(ミヤ)の文
よ絵(エ)とりせてあつめ給ふ
いとゝひめもすもはるゝ
見ゝ紀(キ)よりわたせてい
んとうくわんじゃ(ニホ)
よまよ在(ア)原(ハラ)なりひらの事
浄(ジヤウ)源氏(ゲンジ)ぬ(カウレウ)女(ジヨ)といかな
も男女の事(コト)とりく(サ)道(タウ)のや
とゝの事女(ニヨ)と云(イ)ふ(ニホ)事(コト)の曲(キヨク)
と(ホン)梵網(カウ)経(キヤウ)なども(カウ)ふ(ニホ)事(コト)
禁戒(キンカイ)之中(ノ)ニ婬戒(インカイ)云(イ)不(フ)擇(サツ)畜生(チクシヤウ)乃(ナイ)至(シ)母(モ)女(ニヨ)姉(シ)妹(マイ)六親(リン)

行婬(キヤウイン)ニ(ム)シ(レ)テ(ヒ)ト(ン)ヲ(レ)ヤ(ザ)ス(ル)ニ(ボ)心者(シンシヤ)是(ハ)重罪(ヂウザイ)と云も先(サキ)のよ
ようひとをもてなさんあるよ事(コト)
なり事(コト)ぞといふ母(ハヽ)もうら
肘要(チウヨウ)之(ノ)宝(タカラ)となりひとの
とおりひとをふ(ニホ)法(ホウ)ニ(ヒ)よ(ヨ)心(シン)と(ヲ)結(ムス)て行(ユク)末(スエ)
てかゝるにたりいまゝ
とゝ(ヒ)ト(ノ)ことも
むすめ男有(アリ)ゝ(ノ)ゝ(ヤ)ウ(ニ)ほ(ホ)むる人(ヒト)をもつくり
ゝのことゝ(ヒ)ト(ノ)ゝ(ヤ)ウ(ニ)ほ(ホ)むる人(ヒト)をもつくり
なりてあ人(ヒト)とおもふ(ニホ)ものゝ
卵(カイゴ)とひとつかへるもんも
百(モヽ)の卵(カイゴ)いかゝ

世間のおきて事と云文撰の注よ
況哉と引晋卒云ぐ何よ九層の墓と訓
荀息がおまことをいさめ
二かさくを上
ことと云卒云の曰それいかやうさ事と荀息
曰是やうかくをと云の九層墓を作く百姓と
かくをと云ともおくこと
の欲して墓を絶ん事と止ん文選の注
卒云と哭云ことを墓子の術すると云の
と孫息とをりこと
わざなる所さ事ふたくひさま
さまかくと云ふ

とくりくれい
わさ為浩のくりくもあるへく
くれうこの世ぬるのくりくもあるへく
電光朝露いわぐなれ
とさて日ぬ浩ておく
強のもくもありのへ
わざなる此世を軽まんと云り
方の世をやうるれど
と撰くいへるなり

みれとこ
くれよこそれ物いちを
あるくのこかさ人のこと

と年（サク）楊（ヤナギ）如（ごと）たちてぞ有（あり）ける王（ヲ）年の
さてゝがなふみう物事
事もてもも人のこゝろ
こゝへ多う一度（ど）ゝ
おもゝもこゝろもも
き船（ふね）旧（ふる）年（とし）紀（き）州（しう）相（あひ）
みなゝ
行水（ぎやうすい）
おもゝ人（ひと）
紀文（きぶん）乗（のり）出（だし）昼水酒（ちうすいしゆ）
みなゝ
約水（やくすい）

ゝ汁（しる）まてゝ
前（まへ）の哥（うた）
くな山水（さんすい）
多紀（たき）
てもゝ
ゝ
あるゝ
久（ひさ）
抱（だき）
ゝ
いより
もゝ男（をとこ）の

うへ〳〵ゝ老秋なれ叵やん
死そちめ称さへうれめや
うゐ〳〵ゝへい童詞（カナヲコトバ）こゝな
老秋いさゝまも多へ限（カギリ）なし
多代秋のみうらん叵いさゝまも
もへゝゝと死ゝう称のう由事いさゝ
さゝる秋万歳ゝうへゝ云り人の死（ミヰ）
そうん叵ハ〳〵ん
ひゝ男ありそう人のもゝかさのもち死
そゝこせてゝ多へゝとも
かさゝちまち死ちまち死（ミヰ）と
云拾遺（シウイ）の詞（コトバ）なゝり有ゝる天福のかゝ

なゝちまち死
あやめうゝと老代ゝ下ゝ
我い叵ゝ生ゝかゝそ由〳〵ひゝろ
あやめうゝ称（ショウ）ゝとゝ多へ
と美（ヨウ）ず〻日なれゝゝ
た、せそゝと潴（ヂヤ）
てちまちそゝれつゝ我の野（カノ）ゝ
ゝまゝゝゝ雑（ザツ）ゝと多へゝ
日〳〵ちいさ死ゝゝる
ゝ

さゝゝゝとなんやつそゝ
ひゝ男ありひゝさ女ゝ

ようものなれども
朝(コトバ)そとんでおれのくふ事と
細(ガ)しかつくりのかろもせんをふ話多かんこあ
ひうこうよへふんさうこと打つへ
いつくかなものなくふんこと
打つこなまもも私のうさ
とのへふさ前尾(センビ)お魚(サウヲ)ノゴン
私も話多さうまうこ
なるへ俗(ヨ)限(サーカギ)つれさ奇こ
ひう男にまこなうろる女うひやうと
ろ

めの多(メオ)ぎそうこふたなる男
あまりやなる高やそうらん
たる天福のお母さのひとう奇のふいやうに
要なこさのひうこれこうかれて
幸労(ラウ)なりかろこれこうこと
うそうなるさい家へ帯の天法(ソラ)なる事そ
つこもなりひの高こうらんこうこと
て見まいんなうこなり家やのやの字こあさ
つくろうあり後攅(ゴセン)おまり変なりこあり
のようこ

ひう男なりひうろ
なるこんな
ひう男なりひうろ
のようこ

我ら為ともてさうろう郎
み文字ら所要と幸月いう
うてれもなおのうひ
なさ事み幸労してを
を我ら為とてさうろう
幸月とからひなまいお
ひひひおとみりひとう
ひとんこうくとのう
およい忘れりくりりそのうりなり
文ともみともなう女と
田かんとくい男のわ

のうちやくあのまるとの文ろ
おくよりまうれい
公家ら伊豆内親王の文
の事なり桓武の五
おくますその文ろ
み仲野内親王文ろ
ふりやんこうく業平
けくしてなるる公家ら
ろうの愚見ら桓武天皇
傾のてわるう幸撫位
業平ともん事さもあ
なさ女ら見やけうへ

なれハこそ和の民のうたを見るこゝろ葉平の往
和と見いひしもこゝろたなごゝろにいつるこゝ葉や
いみ一のすさりの〳〵葉平の家居(イエイ)真(ケツ)ありてこゝ
なせるあと女のかゝくこゝろこゝ旧飛潜(ハイカイ)のやう〳〵なる
せり
あまてにくりのそれいく世のやこなれや
すこゝろん人のこゝもの奇こ葉平のたちか
古今集十八こゝもの奇こ葉平のたちか
くれをれと女のどゞのくあるゞのかれんなへ
てあまこゝよりとこゝろあるこゝ人もさい
いく世の宮こゝろあるこゝ人のこゝもの
をせあとこゝあり

やいひくこゝろみやうこゝ
きむくこゝ
津(ツ)生(ウ)まく芸(アシ)ふ宮のうこゝ
かりあもれなのすこゝくだれこゝさい
第一あまこゝよりとこゝろいふ奇こゝりくいつる鬼と
き女こゝいふ津(ツ)生(ウ)まくあまこゝ女のう里(サト)川
きと女こゝもものあいまうこゝふ平もも北を
とこゝりの女と鬼こゝ拾遺(シウイ)集平(ヘイ)安(アン)國(コク)の奇
よみのくのあぶちうふれこゝれ
つもやいみ海こゝうみの國みこゝりの郡こゝろ
と云和一室(シツ)こゝりこゝもあるこゝとやつて
いひたりくこゝろこゝ女の事こゝ和平こゝいこゝ見こゝ

さる月図の大師出誓教の文初めも毗盧大士現とく
まつこ毗猛大士曰女人地獄使結ひ佛種子外面似菩
薩内心如羅刹独則我ハ徒者眼不覚女人下略ス
とくなんいつまでもひろもんと
ひられい
第二回かんとゝろ
らうひくおちかひをたてゝ尾こもゝまを
我も同ろこゆきまつ
それまおちかひをたてゝ尾も同ろこゆきまつ
とやなり経潜潜なり
ひりおとこ来ばいてなりひんひんひんを
きんとおりひいろく

第三回
たゞ遷の所まで
まつひおとこいおもてとゝ山實ゝ
為とくすへき宿りこと
彼いあつなり後撰無業平とあるこく紀朱こ
ふへきとあるも後撰つあ流いげ患ても初開しの
とこ来ま後撰むこひくの分とのくすへき山實ゝ
あまりこ面なくさ和歌のほれ日とてくく紀朱
こゝへき宿の松も世とのるの郎
くてりのつくやくくもふへらられいおりてゝ
水そくるなくてゝいさいそ
ひく拍いくやんくく隠岳せんとゝとくん不平

みづく抱(かゝ)りひの病気(ビヤウキ)となりくるべへ一(ひと)なると
なり面(おも)り水(みづ)そ吸(すひ)ものを以(もつて)冷水(レイスイ)漱(ソヽグ)面(かほ)のこんなり後(のち)へ
する者(もの)よりてよ水(みづ)そ〳〵〳〵〳〵藥(くすり)せ(セ)すもあるも
此(この)家(いへ)勝手(カツテ)なぞ
我(わが)へり家(いへ)をそなる天河
そうさ母(はゝ)のひのくらく
水(みづ)をそ〳〵れくいさ世(よ)
ていあり(アリ)河(カハ)のとう
そんとこその家(いへ)と淋(サビ)しけんとうさ世(よ)
即(すなはち)帝(みかど)ともむこさ
よんをおくおよりくなり奇人(キジン)はひんと幸(サイ)せ
おりべき事(こと)古今(ここん)奇心(キシン)あり

もし男(おとこ)ありそう交(まじ)わりくもまあ
なりさるをかかものあるとしまあり(アリ)もん
とよんよ(アリ)うそ人(ひと)のそ
ひびあくいさ(サ)よあ
めあくなんあとまて
そうせよ(アリ)すんのまし
ていそうそうよさ
交(まじ)へいそうも
めるまもなさといふんをもあかそうそう
とい葉平(ヘイ)の家(いへ)とかへ
のそふをみるまもなたぬ(カウシヨウ)
そうんといふ(アリ)人(ひと)

[illegible]ん[illegible]ん[illegible]
[illegible]ものゝ[illegible]
[illegible]ひたこと宇佐の使[illegible]
[illegible]つるなり越前の代よ[illegible]
て和気の清丸が孫なし[illegible]
事なし不審し但上古[illegible]
[illegible]ひそこを何ぞも納家の室事[illegible]
たてゐひくゝゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]

もいふこと歟(カタ)うたてなりと思せど拙(ツタナ)き歌共集(ウタドモアツ)めさせ給ふ
なり古今集(コキンシフ)は集(アツ)め給はざりしを
さて書(カ)きもらしたるもの多かるべし
もろこしの人の神のうたをほめたる
古今(コキン)序(ジョ)三つ
とく即(ツク)ときく即(ツク)ときく即(ツク)とき

やなぎ(スダレ)簾中の人泣たる
その汀と波もん人のいろく
文ゝりなるそゝみこゝのあ
簾(ス)ごしの深川(ス)と云名所
みるうちの人うき文よ
ろこばれなくていと
とんかも

名ゐ(ヰ)におりてあるへきうき
なこのぬま(キヌ)こゝろ
文(イロコノミ)のこゝろいとさ
おもしろへきうき文(イロコノミ)と
ふかき(セ)文(イロコノミ)
ゝおもしろきこゝろ

いろこの文好(イロコノミ)ふかゝりしをたなれまを
ましてうき見まいは波のよせうつ白絹(キヌ)のやうに
見ゆまゝをくゝりまいき玄(ヒソ)の絹(キヌ)
あるを波のぬま(キヌ)衣(キヌ)と名いふこゝろ
名ゐ(ヰ)にこゝろ文好(イロコノミ)と
ゝくよりおもしろき見まいは波のぬま衣(キヌ)の
風流(タハレ)に後(ゴ)ゐ(ヰ)あるへきとゝみなるを
仮撰(カリエラ)ま(マ)なる組(クミ)朝長(トモナガ)
ものゝ

ぬま(キヌ)こゝろみて
日吉(ヒヨシ)十九番作(ツクル)
名ゐ(ヰ)におりてあるへきうき
ぬま(キヌ)衣(キヌ)のようにうつしなれ
なれすてゝうれしき

むすめ年ごろとつまさだめ
わづらひもなくなれさんの事ゝ
なりければ人ゝ
きうくりのくせあるべしとて
ねとめるをよひもどしてこれを
をしうやく
とつまさうとくの女葉平のうへ
なりんまや蝶(ナカタテ)のごとくこれさう
もとをゝくらし給ふとはいな
のまへの葉平のおこ抱くせ人
ゝとれりや
いもうへの白いおこさうじ
ゝ

わけるもおよろこび
我方ハ裏(ウトロ)てむすめのよめ
ゑらんとさうさうねこ
かいろと
やいなやそうとわたりひくうへも
をよとなくいへもせず后
日ももてこと抱もいやれを
山親元(ヲヤモト)ゑなりんへ
ゐくい葉平の事を云と我方の裏(ウトロ)へと
うさおかすんとそうくなりみなり
ゐまやこの我りあるとのれは
年月ゐれとはさうかなと

我ゝ急うと通て年月梅まてゐりし恵を
事もなきをいそんとなりそりと云ふりて業
女るれい我とおりふうのりてもさう
されるやともふ人先さもなうと女とあくおとし
年のおはうお遠するれら當流のお意又
蕊なり
といひくさあきてとれをうそ
うそう、ふちうふんたーるを
中ねの衣襲とそせ久れとこりぬそとろ
もとよいをいよそろふうー

世ん一世んはそる女いてんはあんまよあひ
えくしそれとといひ出んたりもおさう
ねとなるね義ひそりとを
せんつの子世男とえんおかさやうのくれ
ーさんのおとめくいなぬ久なろべー有
聞よい嫁しる女の事とろはーふねね
義捨流こは胆稽云
みニんとよいてかそりのふ情なくい
ありくてやそふさふなんよれはて
こそいてあんとあてそするふ女そこいてう
みそんいとおうなーいて氏在五中おり
あもせてーうおと思んおりわーありまれ

の元へ行て業平の女のしなやうみめ
さむしろに衣かたしきこよひりや
こひしき人にあふさかのせき
ひ奇(ママ)古今第十四よみ人(詞)さ遣よ衣かたしきこよ
ひりや我とねん宇(ウ)治のもり姫とあつまやの
とうくうけやまんいもこと背(ヒ)もやまくら毎(ヂ)秋の
絵(廿三)もてしなり秋(ア)ふ奇と歌よそ男女の中を
やまとくにもうたてとなりひくとも私いれりなり
とうたふと男あるれとなりひくとも私いれりなり
世中の男女としてをれりなりひくとも私いれりなり
をれりなりのとひとへいれりなりひくとも私いれりなり
見せおんあんあるなり

ならの結(ケツ)局見せおなりひくとも私いれりなり
つま人いねろ(ラウ)ふ(フ)ら列なりのとひとへいれりなり
見せおんあんあるなり
民物語よ源内物なもやの物ひとへいれりなり
なり世のあひなり
もし男女みそうかうぬりさもせさるもくれい
いけくなりくんあやしさよあれ
ひそうかうからかさもやいけくよあつもとも云
ねとあやしさよ奇とよくやつもくんを見
むくなり
み風よ我为となさうれ
ひさりとめけくいろへさりのと

我方と風よなさそやな
おれおとうとめ入りのうひ
方となさかなとめのくん
その字よ切なろくあり

女

とうとめめ風よおのもよ
たろゆうさなろひよりとひ
ひよりとめくろくさとい
よさろふとれわりのな
もそれのひよとろあ
せんようとうとふなり
むろれやけれて

されそあるもろれかりやを
いとなりろ後上よさろ
れこのまろいやうつもろ
みろろれこ女ろゆるされ
おうさもろひよりれ
もかろひなんくおせそ
れ汚やをれりて清和門の江寵をあるもくめ
しひろ女ゆるされそ女も女ゆるされそろ
禁色の宣旨とう事ろ禁緑制ろ云触色大臣女或
清織物とろかり禁女ゆまそろろ
大臣の孫これ実をおれそ男をと在原なり男業平と女そゆ

ふさわしからぬ父兼一の人こと世上よりゆるしうけいれられ流行家元となりいよいよ繁盛一おもなり若衆よりの人ゆうさんくに商かなくうきなり扨なども女のかいてもかなりの男もかなひ賞翫と思しのところにいてもひろめへくおせをといひくいまいせ我分のみりまこうなるも不可能なるとあり行物をんものさすりおりまけ女ひろめへいさもあり

寺の門分ゆさもあり

とひてさしまれつも移へ女のさしよおり移へまいは繁盛不可能なるあり

いてさくへゆくされいなみの人やのさしよおり移へまいは繁盛なるあり

ろともかぐのりみるありは女おりひて

ひて宜されいなくおりひて女のさやへゆくようにまて業平のようにまて

ゆまとなのようにまて業平のようにまて

も愚見よあそもそもかくされり

せくしきえ幕あれハかゝれ畫ハはれなどもた
ゐなるをハ時葉平為上よるを新をして女の里へ
ゐくめるか日とくねつるくを夜司のひるふくり
おくへなげへくれハあるよ活くるりてあるり
かゐりのんまいゐのざさをな紀こを為寮と云ハ
沖敵とゐるさくりのこも分堂上せざかりへう
も寮るも女嬬とてよ女をたてくに厭の事を役
もかなり為上人ものゝ女もゝるゝてあれ
りのなり

後宮職員令曰

掃司

尚掃一人掌供奉床席洒掃補設之事典掃二人掌
同尚掃女嬬十人

ゐくかゝいゐくハ業平のあ事ゐかろびめべゝと
ゐいゐの仁事なりおんやじかんあゝ陰陽師巫覡
かんあゝ女みそ一服んをれてあして祈ゐなり
ゐひせゝとみそしりよせゝみそさ
神いけをなりふゐ為ゐの奇心不遜恵うへ
古今第十一ゝ人志ゝゞ
そうゐ句ゐいけゞそも敬ゝゝしも奇の心ハ
明ゝ神佛ゝつさて彩ま恵ゝるのやぬれ

[illegible]神いうひどもおこりて沼宮(ヌマノミヤ)してひ
[illegible]をおき寺なりわくれかう
[illegible]初めくもわせをもちいて宮家(ミヤケ)つ[illegible]山(サル)[illegible]越(コヒ)えて
[illegible]き教さうるをもちいてみそぎ門うつ
[illegible]うひどもありのせをもちいてみそぎう
[illegible]とうしてなんつみうち
[illegible]ひみてくいかうちうくおこしまして佛の御名
[illegible]とゆんうのくゆをいをもちいて
[illegible]て女はいてうかれうほうをもちいて
[illegible]もくせしてなくかなうことをひれてこと
[illegible]されくとくのんなさをおうほかれてみてきみ
[illegible]ひとくひれてことをなうりて

それはひめのいとこのみやをおもひまうしてさせくく
らふとあくしおもうまうしたまふれいくふのりく
なく

ひれ門(カド)といふもうしてうちうしたなう
宮家(ミヤケ)つ勘(カン)[illegible]持(モツ)[illegible]清(セイ)和天皇(ワウ)[illegible]
未葺(カヤフキ)[illegible]よめ玉(タマ)はこころ(コヽロ)ふ(フウ)[illegible]
[illegible]ス[illegible]意(ハナハダ)[illegible]基(タノ)[illegible]場(ニハ)歳(ゴシラ)如(ニ)神(シン)性(サガ)のひ(ヒ)[illegible]
[illegible]うちうく佛法(ブツホウ)[illegible]
[illegible]新(ガン)も美舞(ビレイ)[illegible]
[illegible]うく沸(ヨム)[illegible]
[illegible]うふ老(オ)[illegible]
世捨(ソステキ)[illegible]
[illegible]うちうとなると女のなげく

くり二条の后の自嘆歎こと共に祖よりする祖
よ葉平流罪よりおとめうくし流罪の事国史
共にみてこと多の話も抜粋もなくぐ
くし折檻の事をなぐ
ふもこそ多りふ女のこの文を不深意の后
女をこまりてさせくふ
一統よ花よ女なりひびく墨へ約とわり良
頭とんこそ葉平のさいなふのこれをと
わりひそく墨へ約とわまいは平安良の亭
よりぬて話べ
きかうろくおて佛の江名とれ
んりのくはたとてア話とこと

女はこうなさくりとわまいは禁中へ吸りまくせ
まくこの事とこるくへさ業平を流されそれ
女をもまてさせ話
おいぐくふこめてい
しまりは責勘
あぢのうれ藻り信む
詠をこうなる世をは
古今小典侍直子と
子細のる事こ是い
よ信虫の二百序前こ
とそんたちひ通
ふふくさりふくへと根

と治め万(ヨロヅ)と保根(タモツネ)なこしひめ我みことわりひみてして
世をこの根(ウラ)うしとともあるんも雑(カタ)さりのなりこ
寄二条の后(キサキ)のこ河よるべくもも
とみなさそれいこの男の人のふるも私でよさて
能(フエ)をいやおりふくくもいおうしてそわ
それよくひろくまこのみこふこりあが
死それをわなもとくいさひとあひねるへさめも
わくなんわるとろ
こ能(フエ)者よなどいさそれ首尾(シュビ)う
かくこと幸国(コウコク)なゆえ辺国ともかくりて業平
そくのうめへ流罪(ルザイ)ともなりけまた京のうさうて
も典侍(ナイシノスケ)くわおうさい流罪の男あるふ

よるくへの国よりかなみこそかのこれ
神なり業平(ナリヒラ)下くろ国ふる国の王道と宇治(ウヂ)する
然こ勅使(チョクシ)の親王(シン)などもてくもいかえよくかなる
人もな
さるもともとなりんうちて
われ母もわるぬ男とまして
世のくよこりわくもも我男は世う
もつまうわるんとなりふらん我男は世う
とならいとのおとこはーわそひかくーあるさ
世へ人の国うあるこうくふ

冬嗣 贈太政大臣 清和后陽成母二条后

長良 中納言

順子 淳和后仁明后五条后

良房 忠仁公 号染殿大臣

高子 清和后 文徳后

明子 清和母 染殿后

いさゝか記してさきのよゝりのゆへ
見まくほりせさりしさを
心ゆくし舞古と葉平たくとの心に同る
まても人の心なりやは諏訪
祖りまくくらしやもん染多
水の尾の位時多へしたれ
后なりし家の后とも

此注よれ雷有朋五条后ハ順子染殿后ハ明子と系図
よりしてさりて見るく水尾山門との清和の事く
此天皇ハ三宝海依しふよりて後ハ山城國
水尾と云所より源通有てまいくたるとそ
清和后ハ水尾山門の清和の事く
もりてとこはの國より三所
ともあかなく

[illegible]
[illegible]
[illegible]

れつゝもいなとこゝろと同道して春のよ雪のたち
まちて山をうくすれ曲もなく紀事しうくうの
うつのみこ雪のいてをりさ谷子可様のひとさ
て元のようやーのようさのみなみのうれいこの
元のけやーと秋人よりたりひろ焼
惜のんろくろしすこ徒行のくたくいよ雲
の暗て一へ面白一不治とこそ打忘れん
とゝもなもうしとなるへーい初ようなりよ
高知へ参ふへきなり育やよ時もこ
そあまこれまを遣寓をとろ何ふよかくせあ
やうもなるくりのようあう郷といふんち移くれ
りひくくもやらんいいそうへーを他者のれ

もうれとこ秋の岡へいさりすこうーの郷住
吉の里すこうーのようをれつまめつゆくある人すみ
義も元の暗のひくさなりたすこうーのようを
約とそりかくい郷情をまーさと住吉の郷すこ
うーの里住吉のようをとれつくうけつま
すこうーのようをとくなりりすこうーのさと
西生し上吉の名とうへうすこうーの郷とこを
ふいあるもそーれん
鳥鳴くく業の元くく秋いあれと

玄の海色うすくみどりの如く
すこしうるほひ晴すこしうるほひ
きわまりて世間の秋の気配(ケハイ)と云(いふ)世(よ)に鳫(カリ)鳴(ナキ)業(わざ)の如
くなるく秋いわまりたる玄の海へうすくうすくのそ
まりたる秋うちに秋まさりそれ
白業の白へ白秋も白きよりよりて
とうとうとれんみつへくとあり
感慨(カンガイ)とおこりて心(こゝろ)奇(キ)
驚(オドロ)嘆(タン)ことばなきよりなり
もう男あるとうその男伊勢の国よりのぼり
りいさゝかよりて

此(この)事(こと)芝居(シバイ)の時(とき)のてう伊勢(イセ)物語(モノガタリ)と云(いふ)題号(ダイガウ)よ
あとをもうけんあるゝ此(この)ことをもつてふかきを侍(サムラヒ)
ぐわんぢう不(ず)用(ヨウ)流(リウ)と狩(カリ)の使(つかひ)よりもじつは狩(カリ)
使(つかひ)とさせんあるよ物使(モノツカヒ)とそとうるく事(こと)国史(コクシ)よ
のせり鷹(タカ)ゞりとんてくさ光孝(クワウカウ)天皇(テンワウ)などの
時(とき)よこゞくてさるく心(こゝろ)業(わざ)平(ヒラ)ハ伊勢尾張(イセヲハリ)五国(ゴコク)の
狩(カリ)の勅使(チョクシ)よ行(ゆく)心異(イ)多(タ)如(ごと)順狩(ジュンシュ)とく自分(じぶん)国(こく)と
めくつもくうちするよを国(こく)の治(ヂ)君(クン)とんあるう
此(この)国(こく)うも一任(いちにん)三年(さんねん)うく更(カウ)勢(ゼイ)とこのへき
思(おも)うさへくうりのこもつて当任(とうにん)の
りのうなかと国(こく)を治(をさ)むる民(たみ)の慈(いつくし)なく治(をさ)むる
なんとんあるよ国(こく)の守(かみ)ハ施(ほどこ)ありひ

もろ〳〵も廻(エン)り合せての事も有(ア)びの事乃
けうにいよ〳〵せての御細(オホソ)くろもれ候(ソウ)らひて
かれさうなるへし
もの御形(ナリ)の秋文(サイクン)なりそれ
さひ人〳〵くさまれいひやうの作(ツク)りひ
のうみなわれいいひやうにいれや
秋文(サイクン)は惟(コレ)高親王と一服(フク)こと秋文(サイクン)
のおやの名虎(トラ)が女紀静(キノセイ)子(コ)
後(メ)の后(キサキ)とみへ秋文の遊(ア)ばされ如実(ニヨジツ)
みへ(ミエ)給へる業平源氏(ゲンジ)
と加(クハ)れそうなるへし
あるよもてお而(メ)んと添(ソ)れそうなり

あるそのかの出(イ)てそやうやうゆふさりかへり
ぬるそこと也そりて梅(ウメ)んろよいろさり
二月とう哉(カ)ておこうまうさりの
いくわそうともなりへ
えあるそひとよひとわの命(イノチ)へなれい生(イ)
も女の紙やもちくわうまうされ女人(ニヨニン)とへつく紙(カミ)ひ
さりそうよおこのりそ〳〵よさたりそう
そこと也来(キ)の字み后(キサキ)あくもるへ一移(ウツ)んろ
よいそうそう字(ラウ)の字み移さうかなり二月と云
秋業平(ナリヒラ)の下向(ゲカウ)して二月の事(コト)うまくわい
もていりなくと云(イフ)ぬ(ヘ)歟(カ)とくや乃岩(イハ)
也(ヤ)う跡(タキ)河(カハ)のわれくもまうへあそんとそふ

三日月のおかしきをなどいひそめしこと
いかなることにかありけん
をとこなくなりもてゆきて歌うたふ
ひとも絶えはてにければ
さるべきよすがもなくて
一訓とかよりのかなりもて
おとこもとにいひやれる
古歌よみの
なるうちにさるべきをりを
歌あるおとこのかくべきよすがも
わすれもてなむ事をこそ
古注曲名は五月雨日とあれどおなじ三
もろともにしみのまてこそ
まことのもものこころもかよ
も筆跡なり
つもそこばくさぶらひしかど
此民に未定(ヲダ)の詩をよく高階(タカシナ)峯緒(ミネノヲ)子師尚実(モロナヲ)者業
平の裏(ソト)なりといふ
おとこいかなりしくれを
うれしといひつかはしたりける
となくてまちをれいはでもの
女のもとにもとをとこ

月のおかしきをなどいひそめしこと
いかなることにかありけん
をとこなくなりもてゆきて歌うたふ
ひとも絶えはてにければ
さるべきよすがもなくて
一訓とかよりのかなりもて
おとこもとにいひやれる
古歌よみの
なるうちにさるべきをりを
歌あるおとこのかくべきよすがも
わすれもてなむ事をこそ
古注曲名は五月雨日とあれどおなじ三
もろともにしみのまてこそ
まことのもものこころもかよ
も筆跡なり
つもそこばくさぶらひしかど
此民に未定の詩をよく高階峯緒子師尚実者業
平の裏なりといふ
おとこいかなりしくれを
うれしといひつかはしたりける
となくてまちをれいはでもの
女のもとにもとをとこ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
君やらん我やゆくらんたも
[illegible]
[illegible]
古今集十三秋之
[illegible]
[illegible]
[illegible]

とゝく葉(ハ)年(ネ)ゆ多の道しわふ仮とそへふり
とくおくまゝ尾張の国へ越てよろ秋空(サイクウ)い水の尾ヲ
仏叶文(モン)遠天皇(クワウ)のゐ世これくものうと
をいふ、この事と注のやうよ、かゝる利